

令和5年度 久慈東高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

久慈東高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

[定量的現状]

- ◆「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」目標達成状況について
「時間外在校等時間が月100時間以上の教職員をゼロにする」R3年度:0人、R4年度:4人
「時間外在校等時間が月45時間以上の教職員(延べ)の割合」R3年度:13.0%、R4年度:14.8%
「時間外在校等時間が年360時間以上の教職員の割合」R3年度:44.1%、R4年度:42.4%
◆月平均1日以上 of 積極的な年次休暇取得の教職員の割合 R3年度:47.5%、R4年度:69.5%

[定性的現状]

- 教職員の意識
 - ・本校の働き方改革の取組を全職員が理解をして推進している。
 - ・定時退庁や部活動の休業が十分に取れない職員がいる。
 - ・時間外勤務をしている教職員が固定している。
- 管理職のマネジメント
 - ・新たな業務が発生した際、スクラップアンドビルドの視点で業務見直し等を進めている。

2 目標・目指す姿

<R5年度目標>

- 「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に掲げるR5年度の目標を達成する。
- 本校に勤務する先生方の業務への充実感や健康面での安心感を向上する。
- 月平均1日以上 of 積極的な年次休暇取得の教職員の割合→70%
- 教職員各自が定時退勤日又はプラス30分退勤日の設定→週1日

<目指す姿>

- 教職員一人一人が風通しのよい職場と感じ、教員としての使命感や達成感を実感し、生き生きと業務に取り組んでいる。
- 教職員が各自の勤務時間を意識しながら働き、長時間勤務の縮減に取り組んでいる。
- 教職員が、休憩・休息の時間を十分に確保し、年次休暇を適宜取得できる。
- 管理職が教職員に対し、日頃からコミュニケーションをとっている。

3 (2を達成していくための) 具体的取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・教職員が自己の時間外勤務を把握し、積極的に時間外勤務の縮減に取り組みます。
- ・管理職が、教職員の健康状態の把握に努め、休暇や振替休日、共済事業について積極的に声がけをします。
- ・学校閉庁日を夏季休業及び年末年始に設定します。

○ 学校における業務改善の推進

- ・情報の共有と分掌間の連携協力を図り、業務の効率化を進めます。
- ・保護者連絡メールを活用し、生徒の欠席連絡業務の改善を行います。
- ・会議資料のペーパーレス化、会議の短縮化、勤務時間外の会議や打合せ等を行わないなどに取り組めます。
- ・管理職による各主任との面談等により、業務の状況を把握し、業務の効率化や軽減に向けて助言を行います。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・各分掌業務の見直しを進め、ICTを積極的に活用した業務の推進に取り組みます。
- ・勤務時間外の外部からの電話について、電話対応時間を決めて対応を行います。
- ・本校における働き方改革の取り組みについて、PTAに理解と協力を求めます。

令和5年5月19日 久慈東高等学校長 佐々木 寛

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者をゼロにする。
 - ・令和3年度実績 県立学校計 71名
 - ・令和4年度実績(第3四半期まで) 県立学校計 21名

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間
	令和5(2023)年度
月45時間超	ゼロ
年360時間超	

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。